

|           |  |
|-----------|--|
| プロジェクト代表者 | 根尾昌志(大学病院薬剤部・部長)   |
| 共同研究課題名   | 基礎および臨床データを用いた Pharmacokinetics 解析および医薬品安全性の評価に関する研究   |
| 目的        | <p>①薬物治療モニタリング（以下 TDM）の対象となる薬剤について、相互作用や測定方法に影響を及ぼす可能性のある物質を検索し、その影響について検討する。</p> <p>②血中の遊離型薬物濃度と組織内の遊離型薬物濃度の関係について、薬物動態学による 1-コンパートメント理論では予測されているが、予測値と実測値の相関関係は証明されていない。本課題によって、数種の薬物や条件下（薬物の投与量、敗血症や糖尿病など）に対するこの相関性を明らかとする。</p> <p>③データ分析ソリューションを用いたデータマイニングやテキストマイニングにより、ビッグデータから業務に役立つ結果を見つける。</p> <p>④疫学的な調査等を実施し、医薬品の効果や安全性の評価に関する研究を行う。</p> <p>これらの研究により、大学病院の薬剤部として薬物療法全体の有効性と安全性を解明することを目的とする。</p>         |
| 内容        | <p>本プロジェクトでは、ジゴキシンの測定結果に影響を及ぼす DLIS (Digitalis-like Immunoreactive Substances) の影響について明らかにし、今後 TDM を行うことが望ましいと考えられるダプトマイシンがプロトロンビン時間に影響を与えると影響を検討してきた。また、抗てんかん薬と経管栄養との相互作用も検討した。今後はさらに血中濃度と組織移行性に関連する研究を継続予定であるが、厚生労働省や FDA が公開しているビッグデータを利用した疫学的な調査等も実施し、医薬品の効果や安全性の評価に関する研究を行う予定である。また、医薬品以外の補完代替医療については、患者を対象としたアンケート調査等も実施する予定である。</p>   |
| 学内共同研究者   | <p>西原雅美(大学病院薬剤部・課長)</p> <p>上田英一郎(QI 管理室・室長)</p> <p>新田雅彦(医療安全推進室・室長)</p> <p>浮村 聡(感染対策室・室長、専門教授)</p> <p>鈴木 薫(大学病院薬剤部・主幹)</p> <p>山田智之(大学病院薬剤部、感染対策室・主事)</p> <p>濱田 武(大学病院薬剤部・主事)</p> <p>畑 武生(大学病院薬剤部、医療安全対策室・主事)</p> <p>後藤愛実(大学病院薬剤部・主任)</p> <p>細見 誠(大学病院薬剤部・技術員)</p> <p>畑 智恵子(大学病院薬剤部・技術員)</p> <p>片岡憲昭(大学病院薬剤部・技術員)</p> <p>西村加菜恵(大学病院薬剤部・技術員)</p> <p>大田 泉(大学病院薬剤部・技術員)</p> <p>鶴岡響子(大学病院薬剤部・技術員)</p> <p>林 哲也(薬学部・教授)</p> |